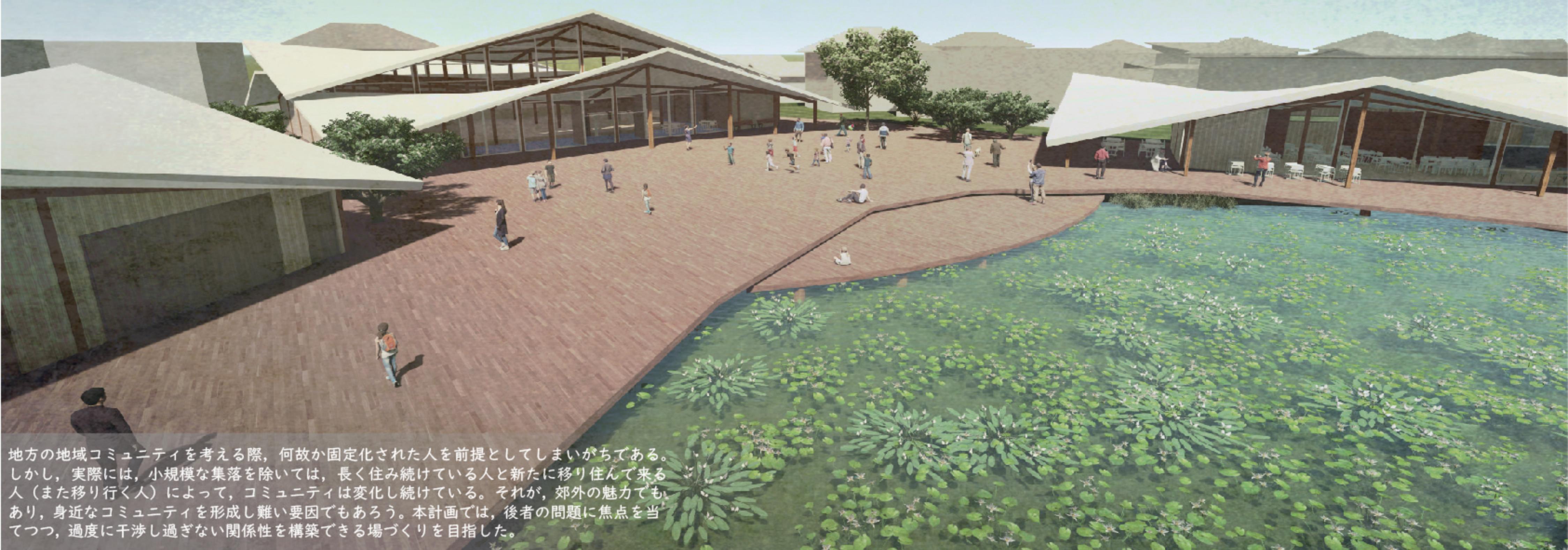
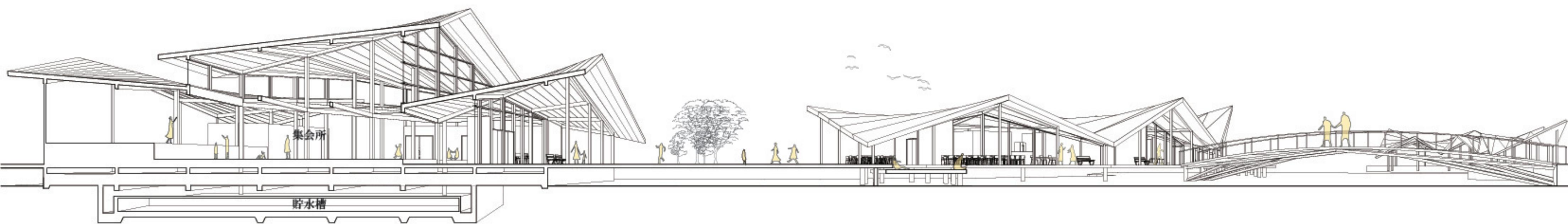


蓮池をめぐる木の空間

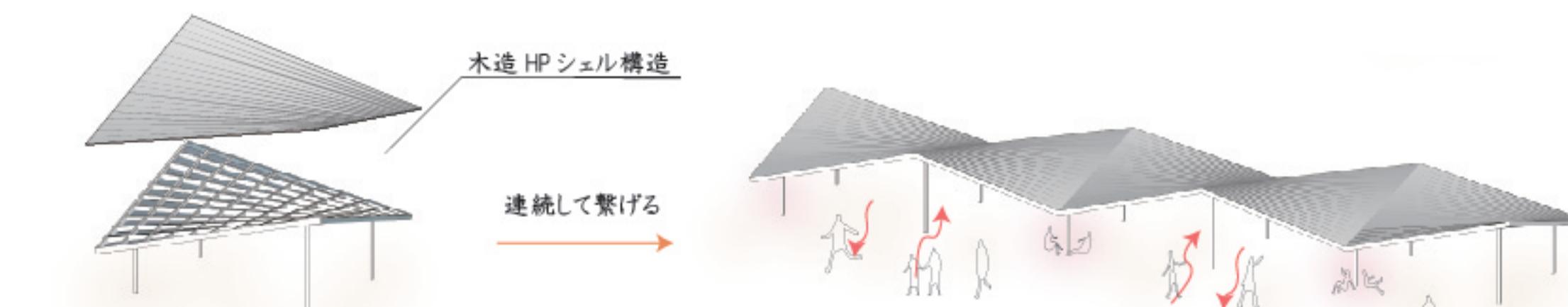
—郊外型コミュニティガーデン—



地方の地域コミュニティを考える際、何故か固定化された人を前提としてしまいかつである。しかし、実際には、小規模な集落を除いては、長く住み続けている人と新たに移り住んで来る人（また移り行く人）によって、コミュニティは変化し続けている。それが、郊外の魅力でもあり、身近なコミュニティを形成し難い要因でもある。本計画では、後者の問題に焦点を当てつつ、過度に干渉し過ぎない関係性を構築できる場づくりを目指した。

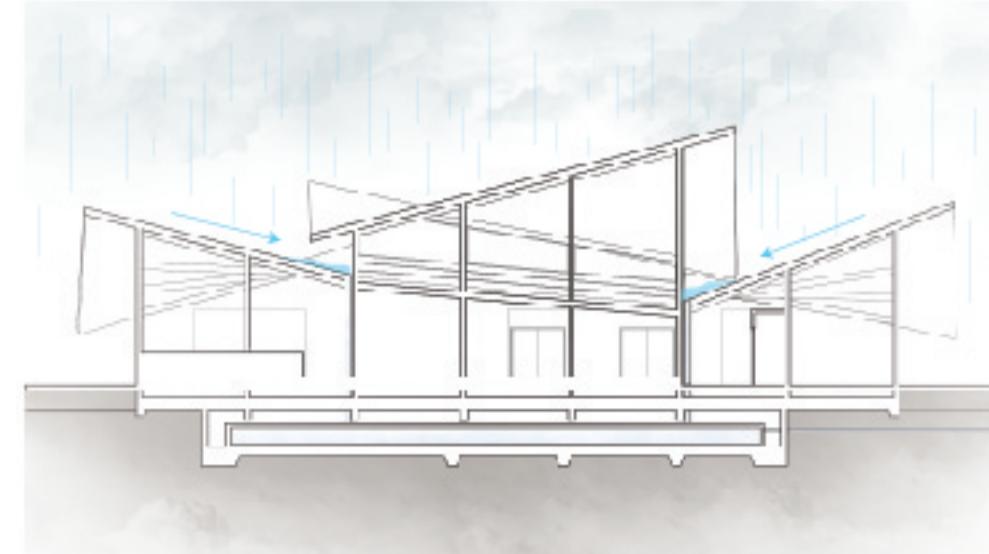


屋根について



周辺の住宅に合わせて、一般流通材を用いる。
水辺に建てるところから屋根に動きをつける。

軒先に高低差が生まれ、高いところは人を招き入れ低いところは留まらせる。



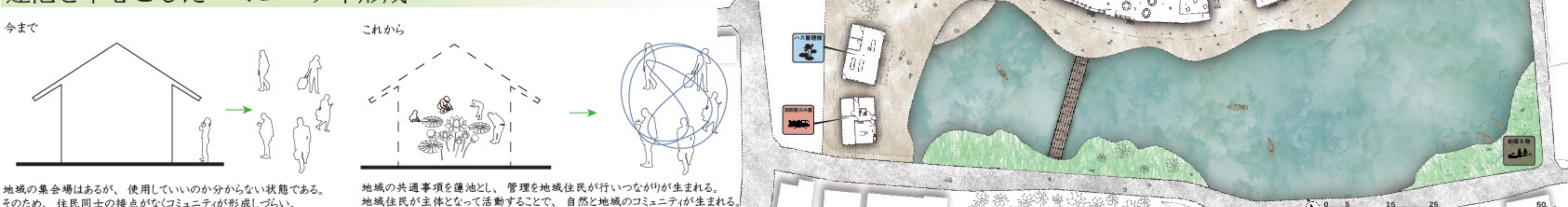
集会所は、3つの屋根で覆われている。それらのうち前面と後面の2つの屋根には、雨水が溜まるようになっている。この溜まった雨水は、集水器を通り地下の貯水槽に流れ、貯水される。貯水した雨水は断水時に生活用水として利用する。貯水槽の雨水は、一定量以上になると蓮池に排出される。



現在の敷地周辺状況



蓮池を中心としたコミュニティ形成



蓮池と建築が一体となり、人々の庭になる。

